令和　６　年

北 海 道 特 用 林 産 統 計

令和７年 12 月

北　　海　　道

目　　次

●〈概要編〉

Ⅰ　国内の主な特用林産物の生産動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　北海道の主な特用林産物の生産動向

1　きのこ類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2　木炭・木酢液 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

3　薪 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

4　山菜類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

●〈資料編〉

Ⅰ　特用林産物全般

1　主要特用林産物生産量及び生産額の推移 ・・・・・・・・・・・・ 5

2　主要特用林産物の都道府県別生産順位 ・・・・・・・・・・・・・ 6

3　主要特用林産物生産量の推移（全国対比） ・・・・・・・・・・・ 7

4　特用林産物生産額の推移（全国対比） ・・・・・・・・・・・・・ 8

5　主要特用林産物生産者数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

Ⅱ　きのこ類

1　生しいたけ生産量における原木栽培と菌床栽培の割合の推移 ・ 9

2　生しいたけ生産規模別生産者数の推移 ・・・・・・・・・・・・・ 9

3　生しいたけ生産者の職業別内訳の推移

（1）原木栽培 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

（2）菌床栽培 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

（3）生しいたけ合計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

4　しいたけ原木の調達ルート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

5　しいたけ原木価格の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

6　しいたけ原木伏込量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

7　菌床製造用おが粉の調達ルート・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

8　主なきのこ類の出荷先内訳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

9　道内主要市場における主なきのこ類の産地別入荷動向の推移 ・ 12

10　一世帯当たりきのこ消費量の推移（二人以上の世帯）・・・・・ 12

Ⅲ　木炭等

1　木炭等用途別生産量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

2　木炭等品目別生産者数及び窯数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・ 13

3　木炭輸入量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

Ⅳ　山菜類、その他

1　山菜類生産量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

2　道内主要市場における主な山菜類の産地別入荷動向の推移 ・・ 14

3　その他の特用林産物の生産量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・ 14

Ⅴ　主な特用林産物の市町村別生産量順位 ・・・・・・・・・・・・・ 15

＜特用林産物とは、＞

主として山林原野において産出されてきた産物で、きのこ類、山菜類、薬用植物、果実類、樹脂類、木炭、薪及び桐など、一般用材以外のものをいいます。

（注）

平成30年からの統計調査結果より、調査対象者数が２以下の場合には、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。

なお、全体（計）から差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合は、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「X」表示しています。

こちらの秘匿措置は林野庁作成の特用林産基礎資料と同様の取り扱いとしています。

＜概　要　編＞

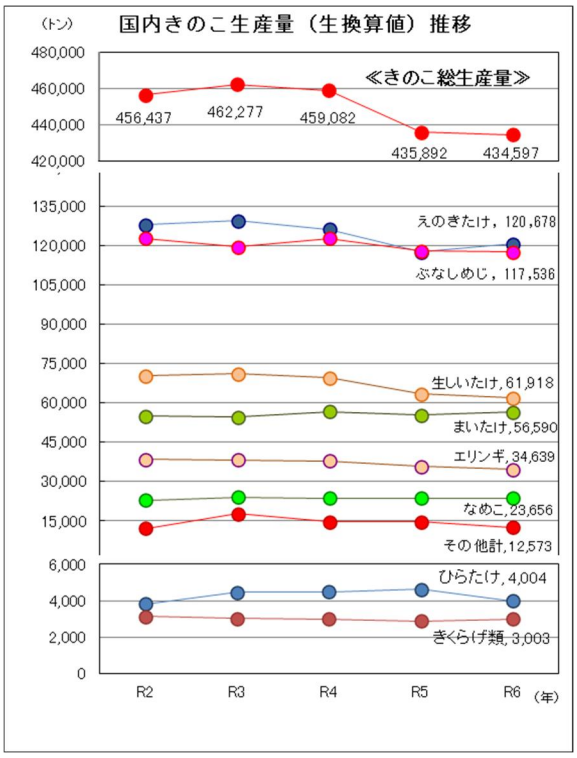
Ⅰ　国内の主な特用林産物の生産動向

1 きのこ類

令和 6 年のきのこ類生産量は 434,597.4 トン（前年比 99.7%）で前年から横ばいとなった。

品目別では、「えのきたけ」と「まいたけ」、「きくらげ類」が微増しているものの、他のきのこは横ばいか減少している。

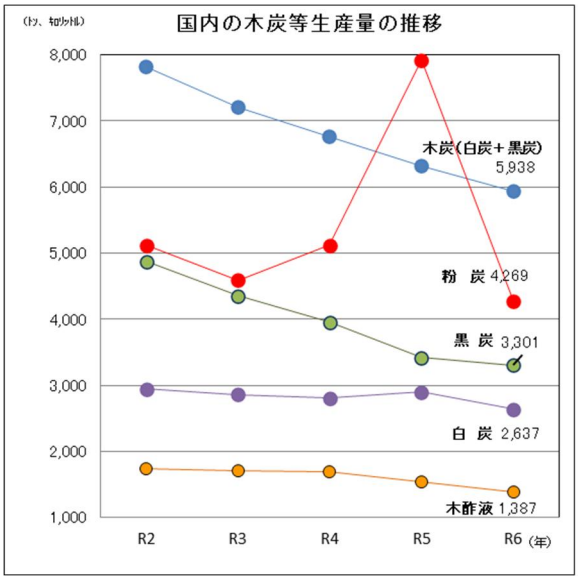
都道府県別では、きのこ類の主産地は長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県となっている。



2 木炭等

令和 6 年の木炭（白炭＋黒炭）生産量は、5,938.2 トン（前年比 94.0%）で、前年より減少している。また、黒炭は横ばい、粉炭と白炭、木酢液は前年より減少している。特に、粉炭は 4,268.6 トン(前年比 53.9%)で大きく減少している。

都道府県別では、「木炭（白炭＋黒炭）」の主産地は岩手県、高知県、北海道、熊本県となっている。



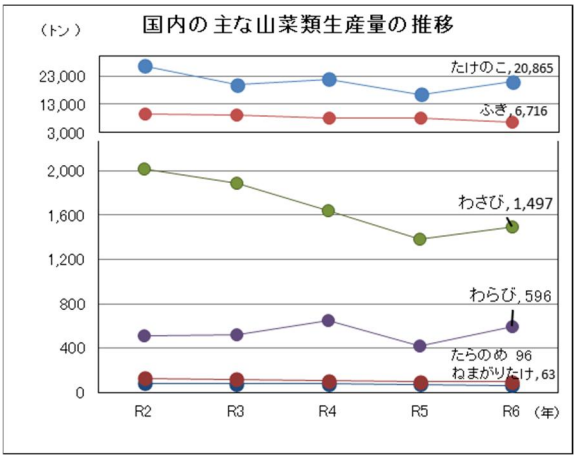
3 山菜類

令和 6 年の山菜類品目別の生産量は、「ふき」では 6,716 トン（前年比 82.2%）で、前年度より減少している。その他の山菜は横ばいか減少している。

都道府県別では、「ふき」の主産地は愛知県、群馬県、大阪府、北海道、福岡県となっている。

4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。

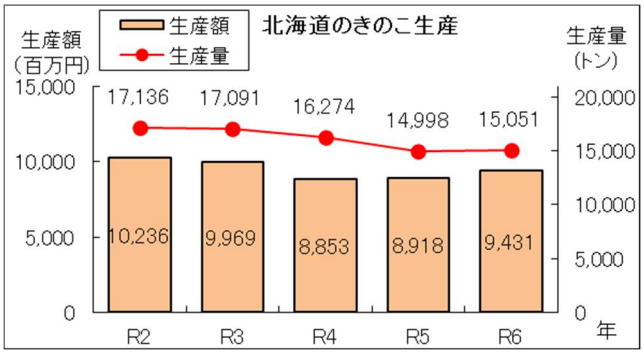


Ⅱ　北海道の主な特用林産物の生産動向

1　きのこ類

北海道では主に、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「エリンギ」、「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和 6 年のきのこ類の都道府県順位は、全国第 4 位に位置し、全国でも有数のきのこの生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第 1 位、「生しいたけ」が第 6 位、「なめこ」が第 5 位となっている。

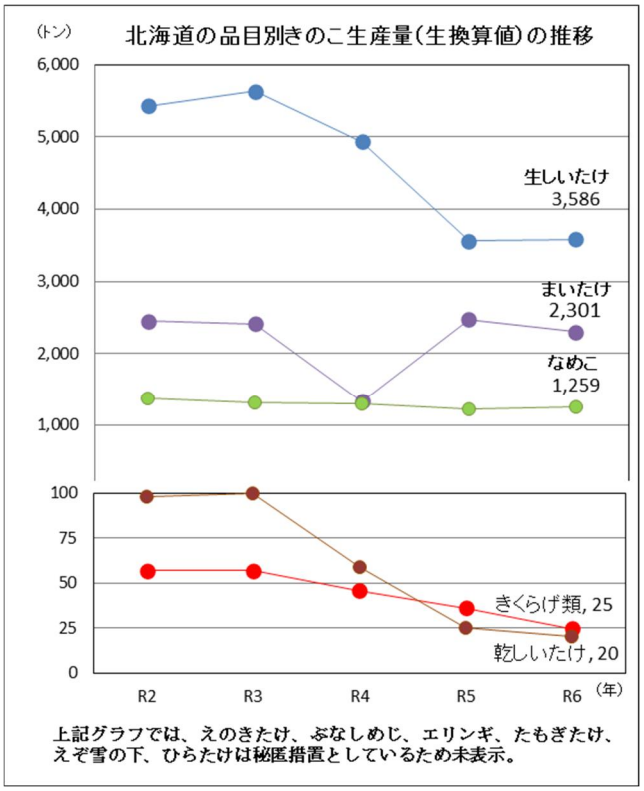


(1) 生産量

令和 6 年のきのこ類生産量（生換算値）は 15,051.5 トン（前年比 100.4%）で、前年から横ばいとなっている。

品目別では、「えのきたけ」、「ひらたけ」は前年より増加しているが、その他のきのこは前年と横ばい、もしくは減少している。

市町村別では、苫小牧市、愛別町、中標津町が主産地となっており、この３つの地域で道内生産量の約 73%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、約 96.7%が菌床栽培となっている。

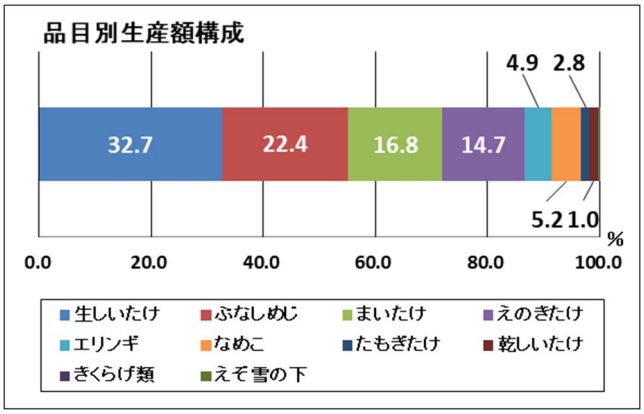


上記グラフでは、えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、たもぎたけ、えぞ雪の下、ひらたけは秘匿措置としているため未表示。

(2) 生産額

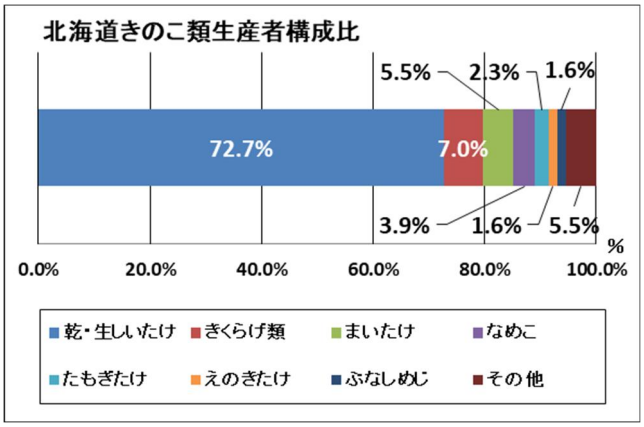
令和 6 年のきのこ類生産額は約 94 億円（前年比 105.8%）で、前年よりも約 5 億円増加している。

また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が 32.7%、「ぶなしめじ」が 22.4%、「まいたけ」が 16.8%、「えのきたけ」が 14.7%を占めている。



(3) 生産者数

令和 6 年のきのこ類の延べ生産者数は、128 者と前年よりも 2 者増加し、実生産者数は 105 者と前年と同じになった。品目別の延べ生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が 93 者 （原木栽培 34 者、菌床栽培 59 者）で 72.7%、以下、「きくらげ類」が 9 者で 7.0%、「まいたけ」が 7 者で 5.5%、「なめこ」が 5 者で 3.9%となっている。



2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭（白炭と黒炭）が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成 22 年以降生産されていない。

令和 6 年の木炭（白炭と黒炭）生産量の都道府県別順位では、全国第 4 位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」のみの生産量は岩手県に次いで全国第 2 位となっている。

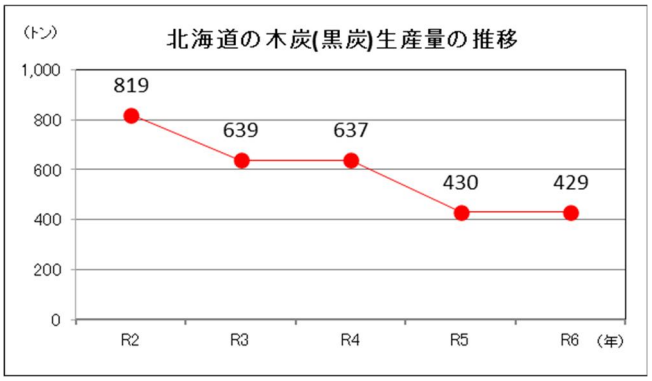
また、木炭以外では、主に農業用（土壌改良等）に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用（土壌改良や植物活性等）のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

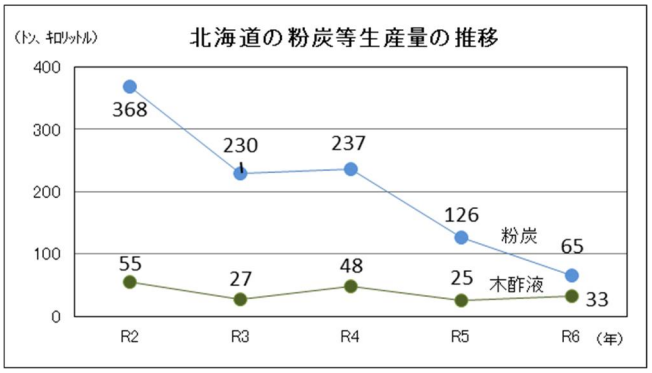
(1) 生産量

〈木炭（黒炭）〉

令和 6 年の木炭生産量は 429.1 トン（前年比 99.8%）で、前年から横ばいとなっている。

市町村別では、森町、釧路市、池田町が主産地となっている。

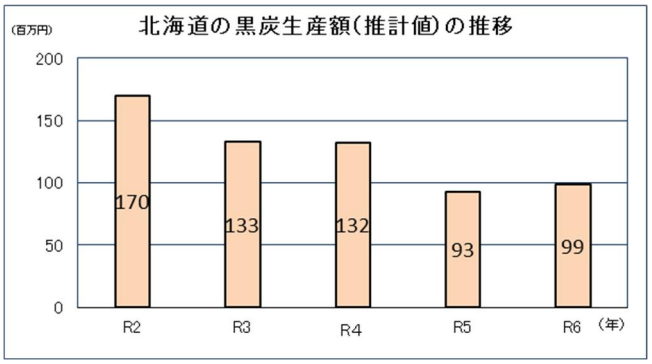




〈粉炭〉

令和6年の粉炭生産量は65.4トン（前年比51.8%）で、前年から減少している。

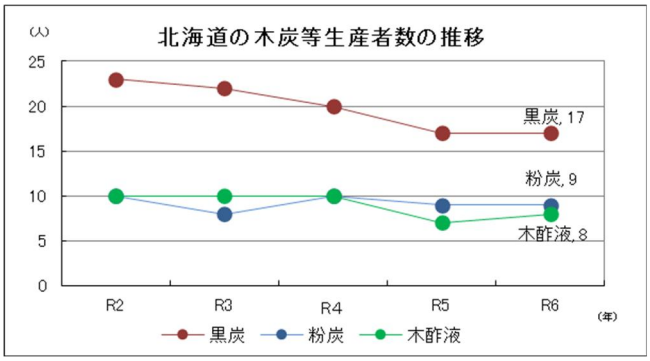
市町村別では、下川町、中川町、士別市が主産地となっている。



〈木酢液〉

令和 6 年の木酢液生産量は 33.0kℓ（前年比 133.5%）で、前年より増加している。

市町村別では、白老町、森町、下川町が主産地となっている。



(2) 生産額

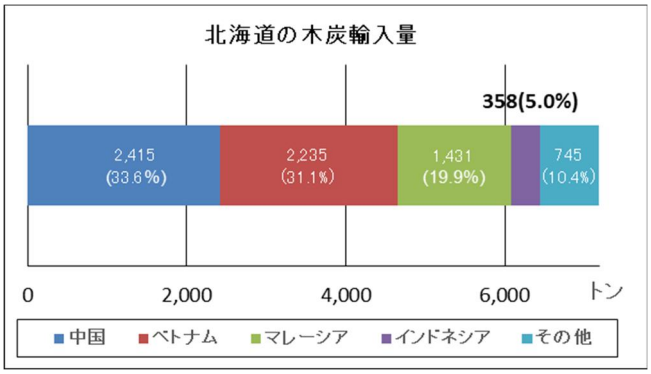
令和6年の木炭(黒炭のみ)生産額は9千9百万円(前年比 106.2%)で、前年より増加している。

(3) 生産者数

令和 6 年の木炭等生産者数は、木炭（黒炭）が 17 者で前年と同じ、「粉炭」は 9 者で前年と同じ、「木酢液」は 8 者で前年より 1 者増えている。

(4) 木炭の輸入

北海道における令和 6 年の木炭輸入量は 7,184 トンで前年より 12 トン減少している。輸入量の国別割合は、中国が 2,415 トンで最も多く、次いでベトナムが 2,235 トン、マレーシアが 1,431 トン、インドネシアが 358 トンとなっている。

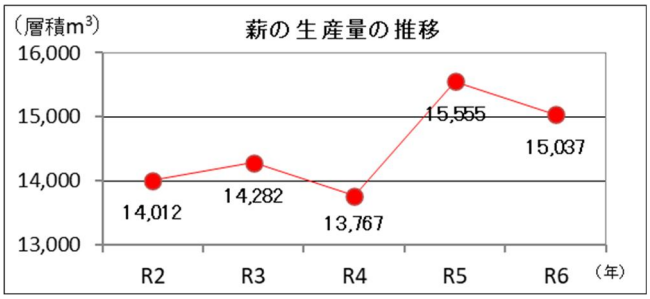


3 薪

(1) 生産量

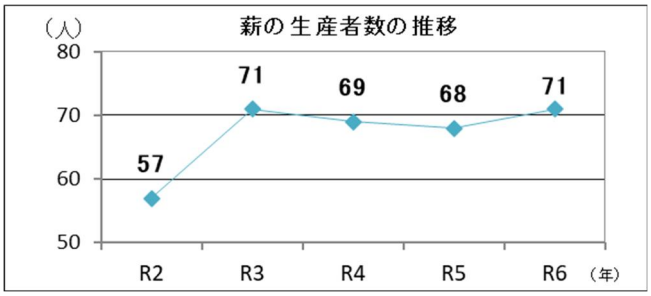
令和 6 年の薪生産量は、15,036.6 立方メートル（前年比 96.7%）で、前年からほぼ横ばいとなった。

市町村別では、札幌市、旭川市、鶴居村が主産地となっている。



(2) 生産者数

令和 6 年の生産者数は 71 者で前年より 3 者増加している。



4 山菜類

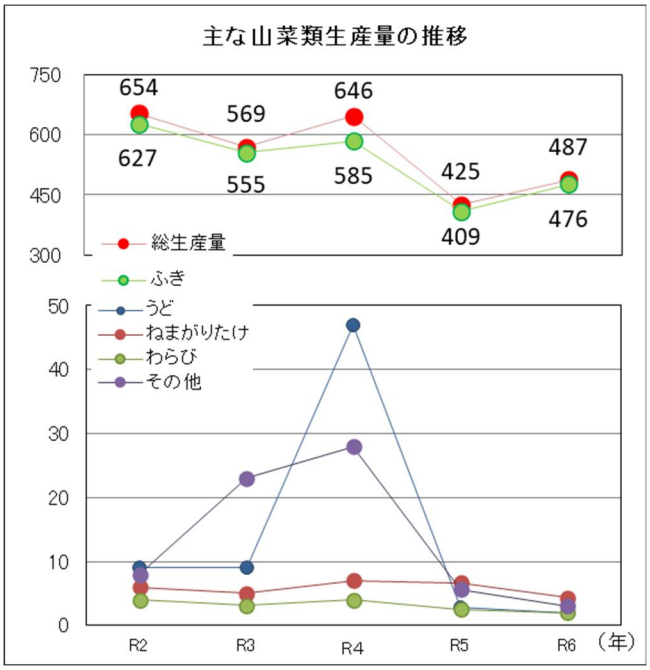
北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響によりに生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「わらび」、「ねまがりたけ」、「うど」で、その他「ギョウジャニンニク」なども生産されている。

(1) 生産量

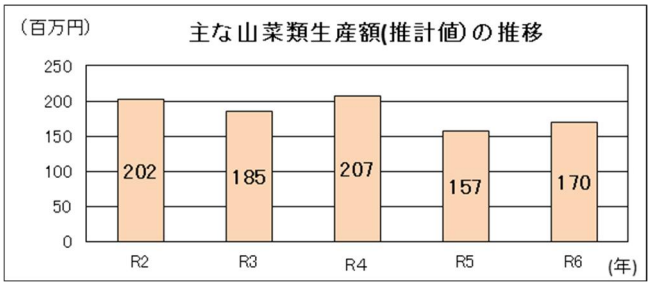
令和 6 年の主な山菜類生産量は 487 トン（前年比 114.8%）で、前年より 62 トン増加している。

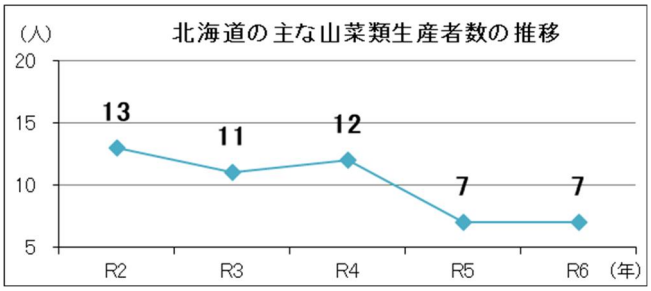
市町村別では、「ふき」は西興部村、「わらび」は蘭越町、「ねまがりたけ」は枝幸町、「うど」は芦別市、「ギョウジャニンニク」は中標津町が主産地となっている。



2) 生産額

令和 6 年の主な山菜類の生産額（推計値）は、約 1.7 億円（前年比 108.6%）で、前年より約1千万円増加している。



(3) 生産者数

令和 6 年の主な山菜類の実生産者数は 7 者と前年と同じになった。